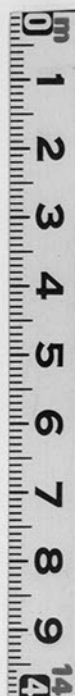
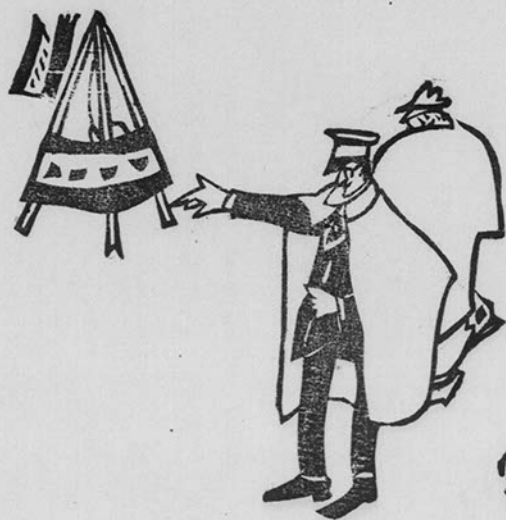
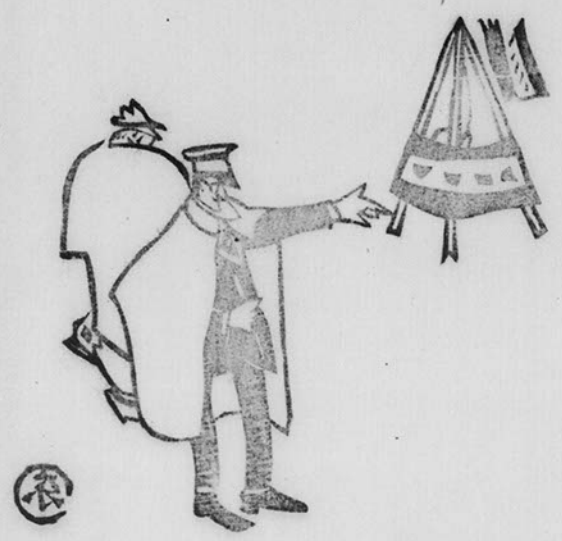


松竹
タヒラ
第拾八號



タイルの家



表

包新
有元子
家
人

川堤砲

有馬

赤魚井

眠人

□ 雜 詠

暗い月 社中 宇寄 文狂

入院ときまつた宵の暗い月

瘦腰がボキリヤキそう自彊術

玄關の犬に猿曳穿りぞむ

玉露 岩瀬 吉成 剣突坊

青島堂静かに光る大鏡

教會の庭に淋しい風仙花

急ぎ足とこが遠つた顔の色

勿体をつけて玉露を入替へる

さうしても見たと女の生衣伸

祭の夜 赤井 松芳 花笑

氷屋の声に祭の夜が更ける

生活苦 平町 馬目 不洲 坊

膏藥を貼るにホッとする注射

看護婦長独身であるが自慢なり

子を抱いた刹那生活苦を忘れ

電灯がついて気分が又変り

寅母殿 社中 浅辺 一角

間に合せて主にもす寅母殿

逢ふた夜と別れた朝と同じ雨

睦しい家に生れて疎く出来
女房の友へ一日引續け
出帆は迫りテツブの事は震い

午内職 社中 新島 新坊

見残した新洲を流る昼休み

子の居ない時は煮鍋のまぐさ食ひ

マネいよー勝つて送午に切る自腹

楽隊を聞へて遊ぶ気が変り

中庭子にへれたい母の午内職

米の値 社中 綿引 東天 紅

華やか踊つて米の値も知らず

行く年に未練はないが考へる

年未も年頭もない失業者

干柿の乾上るまでの仇の跡

温泉で遭つて記憶にある女

夏夕集 吟

赤い 小林 不浪人 送

吐息した後を淋しく虫を消き

五太杯飲んで女給も赤くなり

終点で揺り起さる赤電車

嫁談を耻かそうに娘き、

夢三郎 新坊 狂水 紫香

「ゼロ」 吉成 剣突坊 送

人格のゼロは物議の種をまき

大拍手論者のゼロはそつちのけ

朝飯り今日も財布がゼロにな

差押へ一足遅い腹を立て

証文を立派に呉れて又嫁が

殺氣立つ決勝戦に續くゼロ

五太回足を運んで破談す

待兼ねた庭運動に雨降り

ゼロといふ縛りを使ひにくから

借金と引けは可んにもない資産

ゼロになるまで即破算繰返し

帳尻へ火きなマルを書いて授け 一角

樂觀がぐくつて居る月給日 同 剣突坊

たまに夫婦で女給は祈にナク 同

「疑獄」 飯沼 鬼一郎 送

腹心の一人だけ行く裁判所

大疑獄 砂利セメントの虎と虎

大疑獄 薩の女は泣いて居る

同 新坊 東天 紅

自句

死骸から何ものも得ず刑事行き

◎集會吟

空銀盃退屈通巻

五味茶堂選

退屈を琴に紡ぐす函のよき 東天紅

五六人待つ診察に減る煙草 新坊

遠足の朝起きぬけに空を見る 文狂

銀盃で飲むよりうまい三浦酒 大愚

基も知らず将基も知らぬ夜 文狂

来遅北降つて来そうな空を見る 剣突坊

国境の空を仰げば同じ色 新坊

銀盃の蔭に内助の功光り 同

銀盃で飲む日本の酒の味 東天紅

三才(逆位)

もう一度額を見直す應接洞 新坊

重役は欠伸と共に立上り 同

刑務所を出て本當の空を見る 同

吟社例會

十月二十日
於新坊居

來會者

満寿社 泥天狗 あきら 一角
文狂 東天紅 紫會 新坊

宿題「噂」

互選

二点句

其當座噂を避ける旅に出る 新坊

帰朝待つ埠頭に噂寄り 文狂

三点句

柔轉の噂に記者が會ひに来る 新坊

四点句

怪事件噂ばかりで記事が消へ 満喜庄

宿題「霜」

互選

二点句

滑り台霜置く朝を子等騒ぐ 東天紅

影壁に置く霜に鏡を淋しがり 文狂

蔵一つ建つ頃影壁に霜をおき 泥天狗

霜解の路が気になる秋の光澤 新坊

三点句

もう一度寝床へ戻る霜の朝 新坊

朝帰り霜へ自分の足の跡 東天紅

席題「醉」

互選

二点句

三次會を思ひ立たせる足らぬ醉 新坊

徒らに酔つて長蛇を逸し去り 泥天狗
酒店を出てからコッポ酒の酔 新坊
酔はされて處女を失くしてかの自暴の 同

三句

ツブ酔になつて天下を取つた様 紫香
名論を消きくバーの酒に酔い 東天紅
父サニが酔ふと女の子は抱かれ 同
酔態を女房の真似る翌朝 満寿莊
ほろ酔の膝に坊やの高々大い 紫香

序題 横 互送

二句

思ふ産出歌つてソット横を向き 紫香
横の物縦にするにも人を呼ぶ 満寿莊
横顔を賞めれば横に向いて撮り 新坊
横車押す癖を持ち味よれる 同
横文字を習はしてから家を捨て 紫香
横に降る雨に蛇の目を持餘し 新坊
金力と社長の子で横恋慕 同

三句

横櫛が目立つて素人いからず あきう

○渡辺用氏手回草(二)
三花子死

今更らに鬼灯赤い盆の棚 中寄 文 狂

吉成 剣突坊

合掌をすれば悲しい子の笑顔
子の死顔これが別れと思はれず
蚊帳の中フト死んだ子と思はれず

綿引 東天紅

一生の別れが惜しい死の笑顔
我身にも覚えがあつて湧く涙

旅 信

吉成 剣突坊

磐越東線大越駅

人より石に恒のあるステーション
夏井川の上流

絶勝は汽車を止めたいやうなところ
絶勝は汽車は手取りと見せてゆき
トンネルを出ると吐き出すやうな煙

平野にて多くの如人に遇ふ

ヤアヤアはどちらと同じく振り

同僚はみな美しい心持ち

久し振りにどつちも泣いて別れ

澤村勝為

死は生に勝る贈位の有難味

玉川鎮泉

湯の宿は短く明けると思ひ

効能を見れば萬病みんな験き

湯上りに泡を吹かせる心よき

四倉海水浴場

黒光り大海風呂の氣で泳ぎ

波際に女子供の女奴しき

亡児の墓参

仰塔の影地に長し晚鴉

旧友野木氏に遇ふ

十年も逢はずとちも糸几かり

帰宅

安心の出来る銭家に戻つて来

△埋草

新島新坊

除隊日の亭主へ影留め忘れ

切開の痕が氣になる許嫁

万の場合を頼む手術の日

童謡が好きで生徒になつかる

編輯後記

□ 本号の巻頭の筆蹟刷は

若葉会のか島豆鉄砲氏

北海道の岡島八笑人氏

□ 社友猪狩一雄女氏の長女美智子(四

才)嬢土月平日遊遊せらるる由謹

て弔意を表します

□ 社友渡辺武郎氏今回郡内大浦村に

移る此本社より少し遠く方々ました併

しや寄稿は従来に倍してや願ひます

□ 社友大内秀孝氏延球にはかり熱心

で執筆く川柳志却の熱心も亦くば一陽

未復を期し例の中巻を寄せ給へ

□ タビラも年回の発行では心細いサレ

隔月発行位にした、同人の寄稿を要す

ることは勿論だが社友諸氏の御後援や

鞭撻を偏に希望する次第であります

□ 次会例會は新春松の内を期し平野三

丁目山本屋旅館で新年会を兼ねて開

催の豫定であります。タビラ改題に就い

ては市協賛したいと思つて居ます

○ 次稿課題

△ 水

高木角忠坊氏選

△ 客

渡辺尺蠖氏選

△ 初

藤本蘭亭氏選

各題、十句以内

△ 雜吟

社中選

句数無制限

× 切一月十日用紙半紙型
各題別記ノリ

△ 投句所

たひら吟社宛

大正十四年三月五日発行

非賣品

発行所

福島縣平町千目二
綿引方 川柳たひら吟社

同

片寄文在

綿引東天紅

渡辺一角

新島新坊

○ 次修 課後

△ 水

△ 客

△ 初

△ 難吟

△ 投句所

高不意其地也

波之天壤也

應本國事也

社中 選

句教務所版

大正十四年十一月十日 用紙半紙至

各藥局 宛了

大正十四年十一月十日 發行

發行所

發行所 宛了

發行所 宛了